

球磨工業高等学校 1 学年\_全科「国語総合」シラバス（1～2月分）

1. 単元 《評論》 『生きることと食べることの意味』 福岡伸一

2.単元の目標	3.評価規準
<p><b>【知識および技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文中の漢字や語句を確認し、理解する。</li> <li>「評論文」の論の展開について学ぶ。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文全体の論の展開を確認する。</li> <li>本文の内容を理解する。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の考え方に触れ、「食べる」という行為に対する新しい見方に気付く。</li> </ul>	<p><b>【知識および技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本文中の漢字や語句を確認し、理解することができる。</li> <li>②「評論文」の論の展開について学ぶことができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③本文全体の論の展開を確認することができる。</li> <li>④本文の内容を理解することができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤筆者の考え方に触れ、「食べる」という行為に対する新しい見方に気付くことができる。</li> </ul>

4.授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価基準
第1回	前単元の復習	1	『徒然草』の復習を行う。 《方法》復習プリントの問題演習を行い、 Classroomの解答を見て答え合わせを行う。	プリントの提出	
第2回	本文中の漢字・ 語彙を押さえる	2	・本文中に出てくる漢字・語句を押さえる。 《方法》 対面、オンライン授業の内容を配布プリントに まとめていく。	プリントの提出 観察	①
第3回	「評論」の論構 造の基礎につ いて学ぶ	3	・「評論」の基礎事項について学習し、例題を解 く。 《方法》 対面、オンライン授業の内容を配布プリントに まとめていく。	プリントの提出 観察	②
第4回	本文を構造化す る	4 5	・既習の構造に当てはめ、本文を読解し、簡潔に 構造化する。 《方法》 対面、オンライン授業の内容を配布プリントに まとめていく。	プリントの提出	② ③ ④
第5回	本文の内容につ いての読解問題 を解く	6	・細かい部分の読解問題を解き、本文全体の内容 を理解する。 《方法》 対面、オンライン授業の内容を配布プリントに まとめ、全体のまとめとしてFormsによるミニテ ストを行う。	プリントの提出 Forms ミニテスト	④ ⑤

球磨工業高校 1 学年 「地理A」 シラバス (3 学期分散登校期間分)

期 間 1 月 2 8 日 (金) ~ 2 月 1 0 日 (木)

使用教材 教科書：地理 A (東京書籍)

地図帳：高等地図帳 改訂版 (二宮書店)

資料集：最新地理図表 G E O (第一学習社)

プリント等の課題はありません。  
 学習の際は、各自ノートにまとめましょう。  
 ※学年末考査時にノートチェックを行います。

1. 単元 第 2 章 自然環境と防災 1 日本列島の自然環境と自然災害 (p173~175)

2 日本列島の自然災害と防災 (p176~187)

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>①教科書の情報をもとに、日本の自然環境を背景とした災害や防災について理解を深める。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <p>②理解を深めるために、資料集やインターネット等の複数の資料を活用する。</p> <p>③『防災新聞』作成をとおして、既習事項や自ら調査した事柄を分かりやすくまとめ、表現する。</p> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <p>④自然災害や防災学習をとおして、自然と共存する人々の在り方について自ら考え提案する。</p>	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>①教科書の情報をもとに、日本の自然環境を背景とした災害や防災について理解を深めることができる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <p>②複数の資料を用いながら、単元の問いに対する答えを導くことができる。</p> <p>③『防災新聞』作成をとおして、既習事項や自ら調査した事柄を分かりやすくまとめ、表現することができる。</p> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <p>④自然災害や防災学習をとおして、自然と共存する人々の在り方について自ら考え提案することができる。</p>

※今回の分散登校期間における授業では、①及び②の評価規準を主とする。

4. 授業計画 (以下は 1/28~2/10 に実施される地理 A の授業 4 回分の計画です。)

No	学習項目	授業回	学 習 内 容	評 価 方 法	評価基準
1	地震・津波と防災 / 火山と防災	1 時間目	<p>●教科書(p176~179)の内容を各自で理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の復習</li> <li>・新出語句の調べ学習</li> <li>・必要に応じて学習内容をノートへまとめる (教科書/資料集/地図帳/インターネットの活用)</li> </ul> <p>★登校している生徒は、友人と協働しながら学習を進める。</p>	<p>●教師への質問</p> <p>●取り組みの様子 (学習内容をノートにまとめたものやメモも含む)</p> <p>※実質的な評価は次回の確認テストにて</p>	②
		2 時間目	<p>●確認テスト (GoogleForm)</p> <p>⇒授業開始時間にクラスルームへリンクを掲載します。</p> <p>●間違い直し</p> <p>⇒テストの解説をしっかりと読み、教科書等を用いて間違い直しを行う。</p>	<p>●確認テスト</p> <p>●教師への質問</p> <p>●取り組みの様子 (学習内容をノートにまとめたものやメモも含む)</p>	① ②

2	土砂災害・洪水と治水/台風・雪害と防災	1時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書(p180~183)の内容を各自で理解</li> <li>・既習事項の復習</li> <li>・新出語句の調べ学習</li> <li>・必要に応じて学習内容をノートへまとめる(教科書/資料集/地図帳/インターネットの活用)</li> <li>★登校している生徒は、友人と協働しながら学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教師への質問</li> <li>●取り組みの様子(学習内容をノートにまとめたものやメモも含む)</li> <li>※実質的な評価は次回の確認テストにて</li> </ul>	②
		2時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●確認テスト (GoogleForm)</li> <li>⇒授業開始時間にクラスルームへリンクを掲載します。</li> <li>●間違い直し</li> <li>⇒テストの解説をしっかりと読み、教科書等を用いて間違い直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●確認テスト</li> <li>●教師への質問</li> <li>●取り組みの様子(学習内容をノートにまとめたものやメモも含む)</li> </ul>	① ②

### ★今後の授業について

自然環境と防災(教科書 p 173~187)の学習を終えたあとは、『防災新聞』(レポート)の作成に取り組みます。自分がどのようなテーマを取り上げるかイメージしながら学習に臨みましょう。

### 登校しない日の授業について

- ・授業は登校していない生徒と同時進行で行います。
- ・授業の時間には必ず地理Aのクラスルームを開いておいてください。
- ・授業中に簡単な質問をクラスルームに提示するので必ず応答(コメント)してください。  
※この質問は出席確認用です。コメントの内容で評価をするものではありません
- ・確認テストの時は、回答が終わるまで教科書や資料集等は閉じておいてください。(カンニング禁止)

※その他不明な点があれば、登校時に直接菊池へ問い合わせてください。(クラスルーム上の質問をしても構いませんが、全てに対応できませんので、原則直接問い合わせるようにお願いします。)

熊本県立球磨工業高等学校 1 学年「数学 I」シラバス (1~2 月分)

1. 単元 4 章 図形と計量 1 節 鋭角の三角比

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する.</li> <li>・三角比の表を用いて、日常生活の様々な事象の値を求める方法を理解する.</li> </ul> <p><b>【思考力, 判断力, 表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相似な図形の性質を利用した三角比の定義や三平方の定理を具体的な場面で活用する事ができる.</li> </ul> <p><b>【学びに向かう力, 人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立て、実施し、取組を振り返る.</li> </ul>	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 鋭角の三角比を、直角三角形を用いて求める事ができる.</li> <li>② 日常の事象について、三角比を用いて距離や長さなど様々な値を求める事ができる.</li> </ol> <p><b>【思考力, 判断力, 表現力等】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>③ 三平方の定理を用いて、長さを求める事ができる。また、三角比の定義を利用し、日常の事象との関連を理解し、求める事ができる.</li> </ol> <p><b>【学びに向かう力, 人間性等】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>④ 計画を立て、実施し、取組を振り返る.</li> </ol>

4. 授業計画 【 登校→登校日 , 家庭→家庭学習 】

	学習項目		学習内容	評価方法	評価規準
第 1 回	* 三角比の定義 教科書 ( P 124~125 ) WRITE 問題集 ( P 8 4 )	登校	・教科担当者の説明を聴き、教科書を熟読し問題集を解く.	教科書の取り組み状況	① ②
		家庭	・ WRITE 問題集 P 8 4 を解く ・ F o r m s を解く	問題集の取り組み状況	④
第 2 回	* 鋭角の三角比 教科書 ( P 126~127 ) WRITE 問題集 ( P 8 5 )	登校	・教科担当者の説明を聴き、教科書を熟読し問題集を解く.	教科書の取り組み状況	①
		家庭	・ WRITE 問題集 P 8 5 を解く ・ F o r m s を解く	問題集の取り組み状況	④
第 3 回	* 直角三角形 教科書 ( P 128~129 ) WRITE 問題集 ( P 8 6 ~ 8 7 )	登校	・教科担当者の説明を聴き、教科書を熟読し問題集を解く.	教科書の取り組み状況	③
		家庭	・ WRITE 問題集 P 8 6 ~ 8 7 解く ・ F o r m s を解く	問題集の取り組み状況	④
第 4 回	三角比の相互関係 教科書 ( P 130~132 ) WRITE 問題集 ( P 8 8 ~ 8 9 ) ( 250. 251 は除く )	登校	・教科担当者の説明を聴き、教科書を熟読し問題集を解く。	教科書の取り組み状況	①
		家庭	・ WRITE 問題集 を解く ・ F o r m s を解く	問題集の取り組み状況	④

**【注意】 F o r m s は、「数学 I クラスルーム」にあります**

**【提出切】 WRITE 問題集 : 学年末考査終了日に提出、 F o r m s : 2/10 ( 木 ) 18 : 00 まで**

## 1. 酸と塩基 (2) 水の電離と水溶液の pH (3) 中和反応

2. 単元の目標	3. 評価規準
<b>【知識及び技能】</b> ①酸・塩基の性質を理解する。 ②pHを算出することができるようになる。 ③中和の量的関係を化学式で示すことができるようになる。 <b>【思考力, 判断力, 表現力等】</b> ④ $H^+$ の授受より、酸・塩基を判断できるようになる。 ⑤量的関係に基づきモル濃度を算出できるようになる。 <b>【学びに向かう力, 人間性等】</b> ⑥計画を立て、実施し、取組をふり返る。	<b>【知識・技能】</b> ①リトマス紙の変色などを用いて、酸・塩基の性質を説明できる。 ②与えられた濃度より、水素イオン濃度を算出し、pHを求めることができる。 ③酸・塩基より、中和の化学反応式を書き、量的関係をい示すことができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ④ $H^+$ の授受が判断できる。 ⑤中和の化学反応式より量的関係を判断し、中和に必要なモル濃度を算出できる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ⑥計画を立て実施し取組をふり返ることができる。

## 4. 授業計画

## 基本的な授業の進め方

## ・登校しているとき

- (1) 教科書と準拠ノートとメモを取れる用紙を準備し、教室にて授業に参加する。
- (2) 授業終了後、指定された準拠ノートのページをクラスルームから提出する。
- (3) フォームズによる確認テストを受ける。

## ・家庭学習をしているとき

- (1) 教科書と準拠ノートとメモを取れる用紙を準備する。
- (2) 可能であれば、クラスルームより meet を使って授業に参加する。
- (3) meet で参加できなかった場合は、配信された授業動画を見て学習する。
- (4) 指定された準拠ノートのページをクラスルームから提出する。
- (5) フォームズによる確認テストを受ける。

※ 授業の様子は撮影を行い、meet 配信と、後日見ることができるようになりたいと思います。いつでも振り返りを行い、理解していけるよう頑張ってください。

※ NHK の高校化学基礎講座にも、授業動画があります。

NHK 高校講座で検索するか、右の QR コードを読み込んでください。

URL : <https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kagakukiso/index.html>



## タイムスケジュール

回数	学習項目	学習内容と目標	評価方法	評価 規準
第1回	酸・塩基とは 酸・塩基の価数 酸・塩基の強弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P100～105</li> <li>・準拠ノートP42～43</li> <li>○ <b>酸・塩基の定義</b> 酸や塩基の性質を説明できるようになりましょう。</li> <li>○ <b>酸・塩基の価数と電離</b> 酸や塩基が水の中でどのように変化し、その性質を発揮するのか理解しましょう。</li> <li>○ <b>強酸と強塩基</b> 酸や塩基の「強さ」が何によって表現されるのか理解しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準拠ノートP43 81～86の提出</li> <li>○ フォームズによる確認テスト</li> </ul>	①④ ⑥
第2回	水の電離と水溶液のpH 指示薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P106～109</li> <li>・準拠ノートP43～44</li> <li>○ <b>pHの計算</b> 水素イオン濃度を計算し、pHを求められるようになりましょう。</li> <li>○ <b>指示薬の性質</b> いろいろな指示薬の変色域を知り、指示薬が変色するときの酸性の変化を説明できるようになりましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準拠ノートP44 88～91の提出</li> <li>○ フォームズによる確認テスト</li> </ul>	②⑥
第3回	中和反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P110～111</li> <li>・準拠ノートP45～46</li> <li>○ <b>中和反応</b> 中和の仕組みを理解し、中和の化学反応式が書けるようになりましょう。 中和の量的関係より、中和に必要な酸・塩基の量を計算できるようになりましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準拠ノートP46 92～93の提出</li> <li>○ フォームズによる確認テスト</li> </ul>	③⑤ ⑥
第4回	中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書P112～115</li> <li>・準拠ノートP47</li> <li>○ <b>中和滴定</b> 中和の関係式を使って、中和滴定の計算ができるようになりましょう。 中和滴定に用いられる器具を知りましょう。 中和する酸と塩基の強弱から、適切な指示薬を選べるようになりましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準拠ノートP47 94～96の提出</li> <li>○ フォームズによる確認テスト</li> </ul>	③⑤ ⑥

球磨工業高校 1 学年「体育」シラバス (1/28～2/10)

1. 単元 (1) 選択球技 (2) 体育理論

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を積極的に取り組む。健康・安全を理解し運動に取り組む。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の仕方を考え、工夫する。</li> </ul> <p>【運動の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各運動種目の動きを身に付ける。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <p>運動やスポーツの効果的な学習の仕方を理解する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①課題を積極的に取り組むことができる。</li> <li>②健康・安全を理解し運動に取り組むができる。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③学習の仕方を考え、工夫できる。</li> </ul> <p>【運動の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④状況に応じた動きや対応をすることができる。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤運動やスポーツの効果的な学習の仕方を理解できる。</li> </ul>

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回 自宅	・体育理論 (選択球技)	1	選択球技の「おいたちと発展」 「競技特性」「ルールと審判法」を学習する。 (アクティブスポーツを参考) 部屋でできるトレーニング	課題点検 (後日登校時に) Formsによる取組アンケート	① ③
第2回 登校	・体育理論 (選択球技)	2	選択球技の「おいたちと発展」 「競技特性」「ルールと審判法」を学習。	課題点検 授業観察	① ③
第3回 自宅	・体育理論 (選択球技)	3	選択球技の「おいたちと発展」 「競技特性」「ルールと審判法」を学習する。 (アクティブスポーツを参考) 部屋でできるトレーニング	課題点検 (後日登校時に) Formsによる取組アンケート	① ③
第4回 登校	・選択球技	4	選択球技 (バスケット・バレー・ハンドボール・サッカー・ソフトボール)	授業観察 技能テスト	② ④ ⑤

※分散登校により第1回と第2回、第3回と第4回が入れ替わる生徒もいる。

球磨工業高校 1 学年「保健」シラバス (1/28~2/10 分)

1. 単元 (1) 現代社会と健康

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p><b>【関心・意欲・態度】</b> 健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組む。</p> <p><b>【思考・判断】</b> 健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断する。</p> <p><b>【知識・理解】</b> 健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。</p>	<p><b>【関心・意欲・態度】</b> ①健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができる。</p> <p><b>【思考・判断】</b> ②健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断することができる。</p> <p><b>【知識・理解】</b> ③健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けることができる。</p>

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価規準
第1回 自宅	12 現代の感染症 (p 32. 33) 13 感染症の予防 (p 34. 35) 14 性感染症・エイズとその予防 (p 36. 37)	1	・教科書を参考にノート P24・26・28 を解く。	Forms による取組アンケート 課題 (ノート)	① ②
第2回 登校	12 現代の感染症 (p 32. 33) 13 感染症の予防 (p 34. 35) 14 性感染症・エイズとその予防 (p 36. 37)	2	・説明を聞く。 ・必要事項をノートにまとめる。	授業観察 課題点検	③

※分散登校により第1回と第2回が入れ替わる生徒もいる。



# 球磨工業高等学校 1 学年「美術 I」シラバス (R4.1 月～2 月分散登校分)

## 【学校登校時の課題】

1. 題材名「『こころ』の彫刻～抽象彫刻～」
2. 単元の目標・評価規準

目標 (3つの柱)	評価規準 (3観点)
【知識・技能】・アイデア (原型) を基に、創造的に表現する。・用具の特性を生かす。	【知識・技能】・抽象表現を理解できた。・原型を見ながら形を削り出すことができる。
【思考力・判断力・表現力】・自己の内面を見つめ、形にする。・多視点で構想を練る。	【思考・判断・表現】・自己の内面を見つめ、感じ取ったことを形にすることができる。
【学びに向かう力・人間性等】・主体的に創造活動に取り組む。	【主体的に学習に取り組む態度】・準備、制作、片付けまでの取り組みが積極的である。

3. 授業計画

・授業の続きです。汚れても良い服装、あたたかい服装で美術室に集合してください。

## 【家庭学習時の課題】

1. 題材名「chromebook を使って『鑑賞レポート』を作成しよう」
2. 単元の目標・評価規準

目標 (3つの柱)	評価規準 (3観点)
【知識・技能】なし	【知識・技能】なし
【思考力・判断力・表現力】・作者の心情や意図と創造的な表現の工夫について考え、見方や感じ方を深める。	【思考・判断・表現】・作品の良さを感じ取り、自分の言葉で表現することができる。 ・作者の心情に思いを巡らせることができる。
【学びに向かう力・人間性等】・主体的に鑑賞に取り組み、感性を高める。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・文字数が多い。・作品からの気づきが多い。

3. 家庭学習計画

- classroom 「美術 I」を開き、出席確認をします。必ず授業時間内に出席の返事をしましょう。
- 家庭学習の「美術」の時間はこの鑑賞レポート課題に取り組んでください。
- classroom 「美術 I」内にレポートの【見本】、【作成用】があります。まず【見本】で内容を確認してから【作成用】に入力を進めてください。
- 2 学期に取り組んだ「私のマイアートギャラリー」とパソコンの操作方法はほぼ同じです。【パソコンの操作方法】も classroom にあげていますので分からない場合は確認をしてください。
- 取り組んでみて分からないことがあれば、登校した日に質問に来てください。
- レポートは1枚に収まりきれなくても OK、写真や文字の位置がちょっと変でも OK です。
- 鑑賞する作品の選択は自由です。ただし、作品を探すことが難しい場合は以下の作家名を検索して作品を選んでみてください。(教科書に載っている作家です)

田中一村 (日本画)、伊藤若冲 (日本画)、デヴィッド・ホックニー (洋画)、ジョルジョ・デ・キリコ (洋画)、棟方志功 (版画)、ロダン (彫刻)、舟越桂 (彫刻)、アレクサンダー・カルダー (彫刻)、田中一光 (グラフィックデザイン)、芹沢けい介 (染色)、アンリ・カルティエ・ブレッソン (写真家)

- 選択する作品は、マンガ、アニメは選ばない。「初めて出会う作品」を選ぶこと。
- 2月10日 (木) 18時までに classroom に提出。

球磨工業高等学校 1 学年\_全科「コミュニケーション英語 I」シラバス（1、2月分）

1. 単元 (1) 教科書 Lesson10 Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安藤百福、そして彼が発明したインスタントヌードルを通して、内容に関心を持ち、積極的に取り組もうとする。</li> </ul> <p>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食について、積極的に発言しようとする。</li> </ul> <p>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタントヌードルがどうやって世界に広まっていったかについて理解できる。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞( who / which )の基本的な用法を理解している。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安藤百福、そして彼が発明したインスタントヌードルを通して、内容に関心を持ち、積極的に取り組もうとする。【①】</li> </ul> <p>【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食について、積極的に発言しようとする。【②】</li> </ul> <p>【理解の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタントヌードルがどのように世界に広まっていったかについて理解ができる。【③】</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞( who / which )の基本的な用法を理解している。【④】</li> </ul>

4. 授業計画

授業回	学習項目	場所	学習内容	評価方法	評価基準
1	Lesson 10-2 108ページ	学校	(1) 教科書音読 (2) 教科書109ページ (3) Lesson10-2 プリント	テスト 提出物 授業態度	①② ③④
		家庭	(1) 本文書きプリント	提出物	
2	Q&Aテスト (小川先生の授業で作った英文)	学校	(1) Q&Aテスト (2) 提出物確認 ①教科書(107、109ページ)、 ②Lesson10-1 プリント ③Lesson10-2 プリント、 ④校内検定プリント ⑤本文書きプリント	テスト 授業態度	① ③ ④
		家庭	(1) 校内検定(第5回)プリント	提出物	

1	小川先生との授業	学校	(1) 自分の考えを英語で書いて、添削して頂く。	提出物 授業態度	
		家庭	(1) 校内検定(第5回)プリント	提出物	

※【考査について／学年末考査範囲】

- (1) チャンクで英単語 (Step 7、Step 8)
- (2) Lesson10-1 (教科書106～107ページ) とそのプリント  
Lesson10-2 (教科書108～109ページ) とそのプリント
- (3) 校内検定5回

※【提出物について】

- (1) 教科書、プリントの提出物は学年末考査の英語のテストが実施される日に、英語係に提出。
- (2) 冬休みの宿題(ドリルノト)の未提出、再提出は、登校時に提出。最終締切、提出方法は(1)と同じ。

球磨工業高等学校 1 学年\_機械科「工業技術基礎」シラバス (分散登校用)

使用教材：資料：レポート用紙にまとめる。

教科書：機械実習 1 (実教出版)、工業技術基礎 (実教出版)

1. 単元 (1) 溶接 (飯星・緒方) 【1班】 (2) 手仕上げ (倉崎) 【2班】  
 (3) シーケンス制御 (永吉) 【3班】 (4) 旋盤 (北岡・村山) 【4班】

2. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学 習 内 容	評 価 方 法	評 価 基 準
全 2 回	各実習の 学習内容 を参照	3 H × 2 回	<p>(1) 溶接 (飯星・緒方) 【1班】</p> <p>[アーク溶接]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業技術基礎</li> <li>p.97 ③溶接のための工具・保護具</li> <li>p.97,98 ④アーク溶接基礎知識</li> <li>p.99 ③アークを発生させる④ビードを置く</li> </ul> <p>[ガス溶接・切断]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械実習 1</li> <li>p.132 ガス溶接作業 3</li> <li>p.133 ガス切断作業 (文・図全て)</li> </ul> <p>[半自動溶接・エアープラズマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械実習 1</li> <li>p.147 文+図 1 (b)</li> <li>p.148 文+図 2 (b)</li> <li>p.161 図 15 以外全て</li> <li>p.162 全て</li> </ul> <p>以上を A4 サイズのレポート用紙にまとめる。</p> <p>(2) 手仕上げ (倉崎) 【2班】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業技術基礎</li> <li>①弓のこ作業を用いた切断方法 (P74 図 7)</li> <li>②やすり作業の方法とやすりの使い方 (P75 図 14)</li> <li>③穴あけ作業 (P76 図 16, 17)</li> <li>④ねじ切り作業</li> <li>ア ダイスによるおねじの切り方 (P77 図 18)</li> <li>イ タップによるめねじの切り方 (P77 図 19, 20)</li> </ul> <p>以上を A4 サイズのレポート用紙にまとめる。</p> <p>(3) シーケンス制御 (永吉) 【3班】</p> <p>Classroom (工業技術基礎(R3)) にある資料を A4 サイズのレポート用紙に全て写し、問題を解く。</p> <p>(4) 旋盤 (北岡・村山) 【4班】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械実習 1</li> <li>p.219~p.221、p.224、p.228~p.231、p.233</li> </ul> <p>以上を A4 サイズのレポート用紙にまとめる。</p>	各実習 で評価	1 2 3 4 5

各実習は 3H × 2回 = 6H となりますので、各自で課題を 2回 (3H + 3H) に分けて取り組んでください。

球磨工業高等学校 1 学年\_機械科 「製図」 シラバス (1 / 2 8 ~ 2 / 1 0)

使用教材 教科書：高等学校工業科用 機械製図 (実教出版)

資料集付録：プリント 両面3枚

単元 ・ 寸法記入、表面性状の図示記号、寸法公差とはめあい、幾何公差、尺度・用紙・材料記号

2.単元の目標	3.評価規準
<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械製図における寸法や図示記号などの記入が正確且つ丁寧出来るようになる。</li> <li>・ 図示記号や材料記号の意味を理解し、実用出来るようになる。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切な箇所に相応の記号や寸法が記入できるようになる。</li> <li>・ 図面作成時に実用出来るようになる。</li> </ul> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画を立てた上で実行し、取組を振り返る。</li> </ul>	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <p>①寸法や図示記号の記入が正確且つ丁寧にできる。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <p>②適切な箇所に相応の図示記号や寸法が記入できるようになる。</p> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <p>③計画を立てた上で実行し、取組を振り返る。</p>

4.授業計画

授業回	学習項目	曜日	学習内容	評価方法	評価基
第1回	寸法記入 表面性状の図示記号	登校	教科担当者の説明を聞き、理解する。 演習プリントの問題を解く。	プリントの進捗状況 授業態度	① ②
		家庭	演習プリントのヒントを参考に問題を解く。	プリントの進捗状況	③
第2回	寸法公差とはめあい 幾何公差 尺度・用紙・材料記号	登校	教科担当者の説明を聞き、理解する。 演習プリントの問題を解く。	プリントの進捗状況 授業態度	① ②
		家庭	演習プリントのヒントを参考に問題を解く。	プリントの進捗状況	③

使用教材 教科書：高等学校工業科用 新機械設計 (実教出版)

資料集付録：プリント 両面 2 枚

単元 ・ 2：回転運動・・・ (4) 向心加速度 (5) 向心力と遠心力

・ 3：力と運動の法則・・・ (1) 慣性の法則 (2) 運動の法則 (3) 作用反作用の法則

2.単元の目標	3.評価規準
<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回転運動における向心加速度と向心力、遠心力の意味と実用例を理解する。</li> <li>・ 力の運動の法則 (ニュートンの第一～第三法則) を理解する。また、各法則の具体例や実用例を挙げられるようになる。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回転運動、力の運動の法則の演習問題が解ける。</li> <li>・ 回転運動、力の運動の法則を具体的な場面で活用出来るようになる。</li> </ul> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画を立てた上で実行し、取組を振り返る。</li> </ul>	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 向心力、遠心力の意味を理解する。また、それに伴う加速度を求めることができる。</li> <li>② 力の運動の法則全てを理解した上で、演習問題が解けるようになる。</li> </ol> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>③ 回転運動、力の運動の法則を例に出した演習問題が解けるようになる。また、日常の事象とリンクさせ、考えられるようになる。</li> </ol> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>④ 計画を立てた上で実行し、取組を振り返る。</li> </ol>

#### 4.授業計画

授業回	学習項目	場	学習内容	評価方法	評価基
第1回	向心加速度 向心力と遠心力	登校	教科担当者の説明を聞き、理解する。 演習プリントの問題を解く。	プリントの進捗状況 授業態度	①
		家庭	教科書 P 3 2 ~ 3 3 プリント円運動を熟読し、演習問題を解く。	プリントの進捗状況	④
第2回	慣性の法則 運動の法則	登校	教科担当者の説明を聞き、理解する。 演習プリントの問題を解く。	プリントの進捗状況 授業態度	② ③
		家庭	教科書 P 3 4 ~ 3 5、プリント運動の法則を熟読し、演習問題を解く。	プリントの進捗状況	④
第3回	作用反作用の法則 演習問題	登校	教科担当者の説明を聞き、理解する。 演習プリントの問題を解く。	プリントの進捗状況 授業態度	② ③
		家庭	教科書 P 3 6、プリント運動の法則を熟読し、演習問題を解く。	プリントの進捗状況	④

球磨工業高校 1 学年 「原動機」 シラバス (2 月分散登校分)

使用教材 教科書：高等学校工業科用 原動機 (実教出版)

資料集付録：片面印刷プリント 4 枚

1. 単元

第 2 章 流体機械 2 節 流体機械の基礎

2. 単元の目標	3. 評価規準
<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流体の基本的な性質を把握し、また流体や流体の流れを力学的に捉えて理解し、これらをいろいろな場面で活用できるように理解している。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流体の基本的な性質を把握し、また流体や流体の流れを力学的に捉えて理解し、これらのいろいろな場面での活用法を発表できる。</li> </ul> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら教科書やインターネット等で調査をすることで、流体の基本的な性質を把握し、また流体や流体の流れを力学的に捉えて理解し、これらをいろいろな場面で活用することで、関心を高めようとしている。</li> </ul>	<p><b>【知識及び技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 流体の基本的な性質を把握し、また流体や流体の流れを力学的に捉えて理解できる。</li> <li>② ①をいろいろな場面で活用できる。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 流体の基本的な性質を把握し、また流体や流体の流れを力学的に捉えて理解し、これらのいろいろな場面での活用法を発表できる。</li> </ul> <p><b>【学びに向かう力、人間性等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④ 自ら教科書やインターネット等で調査をすることで、流体の基本的な性質を把握し、また流体や流体の流れを力学的に捉えて理解し、これらをいろいろな場面で活用することで、関心を高めることができる。</li> </ul>

4. 授業計画

授業回	学習項目	時間	学習内容	評価方法	評価基準
第 1 回	ベルヌーイの定理 (演習)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p 41 の例題を参考に、p 42 問 8、問 9、問 10、問 11、p 57 節末問題 5 をノートに解く。</li> <li>※教科書やネットを活用し取り組む。</li> </ul>	・ノート	①② ③④
第 2 回	ノズルとディフューザ	0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p 42 を読む。</li> <li>原動機学習プリント①に取り組む。</li> <li>※教科書やネットを活用し取り組む。</li> </ul>	・学習プリント①	①② ③④
	トリチェリの定理	0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p 42~p 43 を読む。</li> <li>教科書 p 43 問 12 に取り組む。</li> <li>※教科書やネットを活用し取り組む。</li> </ul>	・ノート	①③ ④
第 3 回	トリチェリの定理 (演習)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>原動機学習プリント②に取り組む。</li> <li>※教科書やネットを活用し取り組む。</li> </ul>	・学習プリント②	①② ③④
第 4 回	まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>原動機学習プリント③、④に取り組む。</li> <li>※教科書やネットを活用し取り組む。</li> </ul>	・学習プリント③④	①② ③④